

テーマ：貿易統計（2009年11月）

発表日：2009年12月21日（月）

～輸出は引き続き好調～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
	原数値	季調値	金額		前年比	数量			前年比	数量		前年比	
			輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU		アジア
08	1月	▲1063	11013	7.7	9.5	7.7	▲3.1	3.4	11.9	0.7	▲7.1	▲1.7	1.7
	2月	9358	6582	8.7	10.7	14.3	1.8	8.6	21.7	▲1.0	▲0.5	0.6	▲2.9
	3月	10962	6612	2.2	11.4	5.9	▲3.4	5.5	7.9	4.3	▲8.4	2.9	12.5
	4月	4587	5695	3.9	12.2	7.3	▲0.5	3.8	12.2	5.8	▲6.2	4.2	5.6
	5月	3411	3813	3.6	4.8	6.6	▲0.4	0.1	10.5	▲3.4	▲11.0	▲7.3	▲4.8
	6月	1041	▲244	▲1.8	16.7	▲1.5	▲8.6	▲8.9	1.1	4.4	11.9	1.9	2.0
	7月	819	843	7.9	18.2	8.9	▲5.3	3.1	12.1	2.2	▲1.9	▲11.2	0.9
	8月	▲3142	▲1956	0.2	17.1	▲1.0	▲18.9	1.7	2.6	▲4.5	1.4	▲8.1	▲5.2
	9月	910	▲381	1.5	28.8	▲0.6	▲12.2	▲8.1	1.2	6.1	5.0	4.0	9.9
	10月	▲752	▲3118	▲7.9	7.4	▲6.9	▲17.4	▲10.4	▲2.8	▲2.4	▲18.3	▲6.0	1.8
	11月	▲2275	▲3637	▲26.8	▲14.4	▲22.7	▲28.5	▲16.8	▲22.4	▲10.7	▲12.2	▲14.8	▲8.6
	12月	▲3222	▲1806	▲35.0	▲21.5	▲29.9	▲31.3	▲29.7	▲30.7	▲7.1	▲16.1	▲10.6	▲5.6
09	1月	▲9560	▲4455	▲45.7	▲31.9	▲40.9	▲48.6	▲42.0	▲39.0	▲11.7	▲22.8	▲15.3	▲10.7
	2月	827	▲612	▲49.4	▲43.0	▲45.4	▲55.5	▲45.6	▲40.6	▲25.3	▲24.3	▲27.4	▲30.8
	3月	91	▲365	▲45.5	▲36.6	▲41.1	▲49.5	▲49.6	▲33.8	▲20.4	▲22.8	▲27.5	▲20.7
	4月	664	977	▲39.1	▲35.8	▲35.9	▲49.4	▲42.8	▲28.8	▲20.3	▲27.2	▲29.7	▲18.9
	5月	2968	2851	▲40.9	▲42.4	▲36.2	▲46.8	▲40.2	▲27.6	▲24.0	▲34.9	▲28.7	▲23.2
	6月	5058	4341	▲35.7	▲41.9	▲27.6	▲37.4	▲36.1	▲19.0	▲18.2	▲35.9	▲23.6	▲13.7
	7月	3775	3036	▲36.5	▲40.8	▲27.6	▲34.7	▲36.4	▲18.6	▲14.9	▲30.4	▲24.3	▲11.5
	8月	1816	3251	▲36.0	▲41.2	▲25.4	▲29.3	▲39.1	▲15.8	▲12.8	▲29.4	▲15.3	▲7.6
	9月	5237	2231	▲30.6	▲36.9	▲21.8	▲27.3	▲31.7	▲9.6	▲10.2	▲22.1	▲19.0	▲7.6
	10月	8054	4608	▲23.2	▲35.6	▲13.0	▲21.1	▲26.7	▲1.9	▲11.7	▲5.9	▲20.4	▲10.5
	11月	3739	4924	▲6.2	▲16.8	▲1.6	▲6.2	▲18.5	11.9	▲2.0	▲10.0	▲4.2	1.5

(出所)財務省「貿易統計」

○ 輸出の増加が続く

財務省が発表した09年11月の貿易統計では、貿易収支が3739億円となり、ほぼ事前の市場予想（3192億円）通りの結果だった。輸出が前年比▲6.2%（10月：▲23.2%）、輸入が同▲16.8%（10月：▲35.6%）と、ともに前月から減少幅を縮小させている。

昨年のリーマンショック以降に輸出金額が急落した裏が出ていることで、前年比での下落幅縮小ペースが実態以上に速く見えていることには注意する必要があるが、季節調整値でも前月比+4.9%となっており、強い結果であることには変わりない。また、価格変動の影響を除いた実質輸出（日本銀行作成）も、11月は前月比+0.7%となった。増加幅は小さいが、9月が同+5.5%、10月が同+3.3%と大幅に増加していたことを踏まえれば良好な結果と言って良いだろう。この結果、実質輸出の10-11月平均の値は7-9月期を+7.8%上回っている。4-6月期の前期比+12.1%、7-9月期の同+11.1%ほどではないが、非常に高い伸びが続いていることが確認できる。以前は、輸出が10-12月期以降減速するとの見方は多かったが、少なくとも11月までに関しては、そうした動きはみられていない。海外での在庫調整進展に伴う輸出押し上げ効果は、一時期に比べると弱まりつつあるようだが、一方で、中国を中心とするアジア経済が早いペースで回復していることに加え、米国経済も持ち直しに転じるなど、世界景気が回復感を強めていることが輸出増に繋がっているとみられる。

この結果、GDPベースの実質輸出も、4-6月期（前期比+6.5%）、7-9月期（同+6.5%）に続いて高い伸びになる可能性が高くなった。輸入が、7-9月期（同+3.3%）と比べてやや増加ペースを落としていることも考慮すると、10-12月期も外需によって成長率が押し上げられる可能性が高いだろう。実質GD

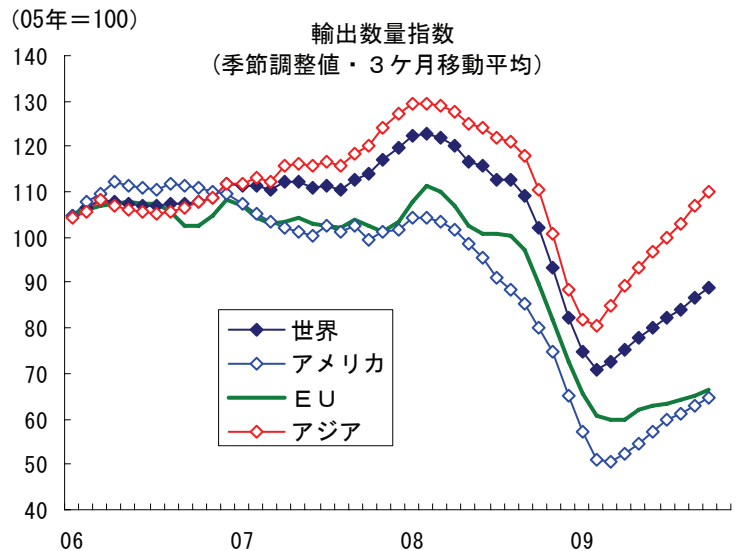
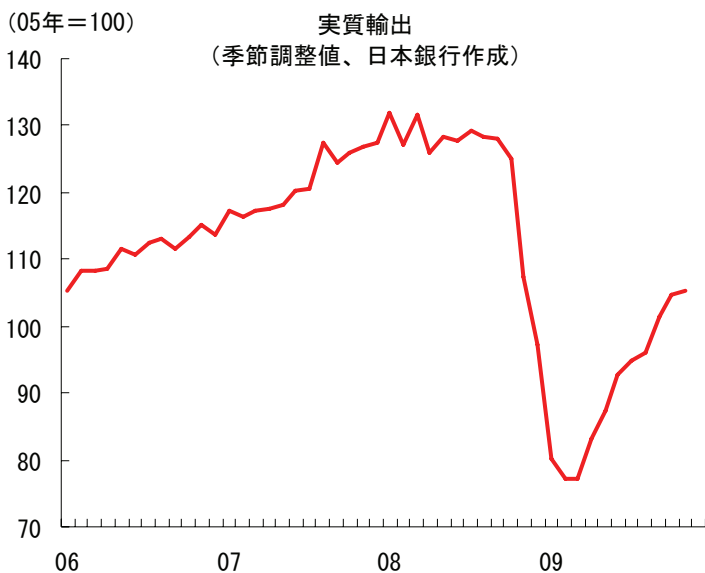
Pは、7-9月期が前期比年率+1.3%と非常に緩やかな伸びにとどまったが、10-12月期は、内需の低迷を外需が下支える形で年率+2%成長も十分視野に入る。

○ アジア向けが牽引

地域別では、引き続きアジア向け輸出の好調さが目立っている。アジア各国では景気対策効果が依然効果を発揮していることに加え、先進国からの資本流入によって金融環境も極めて緩和的であり、景気回復が鮮明化している。中国景気は内需主導で好調さを維持していることに加え、NIEs、ASEANについても中国経済に牽引される形で高成長を実現している。アジア向け輸出は当面堅調に推移するだろう。

米国向けについても、アジアと比べると見劣りはするが増加基調が続いている。在庫復元の動きが持続していることに加え、米国の最終需要自体も徐々に持ち直しつつあることが寄与しているとみられる。欧州向けも緩やかではあるが底はつけたようだ。中東、ロシアについては底這い状態が続いている。

品目別では、輸送用機器や電気機械が増加している。ただ、電気機械については、増加基調は続いているものの、そのペースは鈍化しつつある。また、一般機械の回復がこのところ目立っている。海外での設備投資抑制に伴って一般機械輸出はこれまで低迷が続いていたが、ようやく増加基調に転じたようだ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。